



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2018年(平成30年)2月15日号 No.1751

目次

■ 2017年のロシア経済と鉱工業生産	1
■ 統計速報	6
2018年1月のロシアのブランド別乗用車販売台数/6	
■ エトセトラ	7
月例報告会「日ロ経済協力の最前線サハリンの現状」/7	
■ キーパーソン	7
駐日ウズベキスタン新大使が着任/7	
■ トピックス	7
共同経済活動加速へ向けた日ロ次官級協議/7	
日産がロシアでオンライン販売を開始/8	
ロシアの郵便局で日本製品を販売/8	

2017年のロシア経済と鉱工業生産

はじめに

ロシア連邦国家統計局より2017年のロシアの主要経済指標が発表されたので、本速報ではそれらを図表にまとめてお届けする。鉱工業生産については特に詳しく紹介していく。なお、2017年のロシアの貿易統計に関しては、ロシア連邦関税局のデータに基づき、後日より詳しくお伝えする予定である。

2018年2月1日にロシア連邦国家統計局が発表した速報値によると、2017年のロシアの国内総生産(GDP)は、現行価格で92兆819億ルーブルとなった。実質経済成長率は前年比プラス1.5%となり、2年続いたマイナス成長を脱した。ただし、2017年第4四半期に生産指標が悪化するなど、安定成長の軌道に乗ったとはまだ言い切れない面がある。

鉱工業生産は前年比で1.0%増加した。鉱業はプラス2.0%、製造業はプラス0.2%となっており、資源依存を脱却して経済の高度化、輸入代替等を推進したいロシアにとっては好ましくないパターンと言わざるをえない。

2017年の鉱工業生産を連邦管区別・地域別にみると(図表5)、連邦管区別のデータにはそれほど大きなばらつきはみられない。地域別データでは、極東のハバロフスク地方が大きな伸びを示していることが注目される。